

こんなポスターを作る 税金こそ もったいない!

いま小麦(輸入品)が値上がりしていると報じられています。で、国内に目をやると・・・

たぶん北茨城市内では販売目的で麦を作っている農家はいませんが、県西地域の仲間から聞いた去年の小麦の出荷価格。なんと一等品で

キロあたり8円ほどにすぎず、さらに二等品だと、たったの2円だったとか。ある大規模農家の事例では、10ha(3万坪)作付けして売り上げわずか47万円だったそうです。

という実態を頭の片隅において、下のポスターをながめてください。

農水省の東北農政局が作成したもので、3万枚も印刷・配布したそうです。インターネットでも大いに話題になっています。

こんなのに使われた税金こそもったいない。こんな仕事をしてるお役人サマを税金で養う必要はあるのだろうか? 多くの農協幹部もそっち側かあ!? 米国からライスつてのが来たようだから、そっちからのアルバイト料で暮らせ!!

こほん。ついキしてしまいました。中国からの毒入りギョーザをきっかけに、食料自給率の低さが今さらながらクローズアップされているみたいだけど、農政の現場では、当事者意識も責任も感じていないというわけです。農家はもちろんだけど、消費者のみなさんもしっかり心しておくべきです。毒を食べさせられる覚悟はできていますか?

*

十王町の国道6号沿い、広域下水処理場の向かい側に田んぼが広がっています。伊師田んぼなんて呼んだりしていますが、あそこで大規模な転作がおこなわれていたことに気づいてましたか。大豆などが栽培されていました。

じつは、その集団転作に取り組んできた農家の組織が、このほど解散したそうです。自民・公明が決めた「品目横断的経営安定対策」という名の農業つぶし政策のもとで、補助金交付の対象からはずれたことが直接的な引き金です。

米の代わりに他の作物を栽培しても大損するばかりなら、やめちゃうのは自然な流れです。とにかく、暮らしていけないんだから。その現実を無視して、“自給率向上”なんてお題目を唱えるだけでは、具体的な対策にはつながりっこありません。

